

忘年:真鶴半島散策報告(2022年12月11日(日))

忘年山行は今年も「新型コロナウイルス」に配慮して、“日帰りの近間”ということで、「真鶴半島散策」とし、年末行事である反省会は海鮮料理で舌鼓を打つことにした。参加される方は最終的に伊藤(L)、池田、石井、荻野、神田、松山、三浦、三ヶ原、柳澤、陽田の10名となった。

真鶴駅前10時集合に対して、その前から大方の人が集まったので、順次タクシーに分乗して最初の目的地:「お林展望公園」(この一帯の森林は皇室から下賜されたので“オハヤシ”と読む)に向かった。伊藤さんが最後の人達と共に到着し、10時には全員集合した。

「お林展望公園」で、ゲートボールよりは幾分高級な「パークゴルフ場」の中を通り抜けた先の広場で海を眺めた。引き返して「中川一政美術館」の前を通り、いよいよ「灯明山」(海拔:98m)に連なる急な階段道に掛った。ここが「御林遊歩道」である。楠、スダジイ、松、椎などの巨木に囲まれた深い森になっている。ほどなく峠の分岐点に着き、右手の「森林浴遊歩道」を進む。左手は結構深い谷になっていたが、暫く下るとバス道路に出た。

歩道はここから「番場浦遊歩道」に入っていく。道は更に「潮騒遊歩道」になり、「三ツ石海岸」まで50m程下るのだ。「三ツ石海岸」からは、海の中で細く伸びた白砂の先に散在する「三ツ石」眺めることができる。

11時半、「ケープ真鶴」の展望広場に全員が集合した。ここには「与謝野晶子の歌碑」と幕末の砲台跡があった。全員で証拠写真を撮った後、11時54分発のバスで真鶴駅へ戻った。今日の昼食兼反省会の会場には少し戻って、12時半に真鶴の町と海を見下す高台の上に建つ割烹旅館:「鯛納屋」に着いた。

大広間には既に椅子+テーブル席に海鮮料理が用意されており、皆さん、それぞれに生ビールやウーロン茶等を注文し、飲む組とあまり飲まない組に分かれて座り、8月に亡くなられた故早坂様の献杯を兼ねて乾杯した。その後伊藤リーダーから資料が配布されて、「今年は曲がりなりにも12回の山行が実施できた。来年の計画では1月8日:『浅草七福神』、11日:『千葉の水仙』、15日:『新年山行:吾妻山』などです」と報告された。

色々の話題が飛び交ったが、三浦さん、「打たれ強いんだよ、家の中で転んでも大したことがなかった。居酒屋で大將が造った45度のドブロクを飲まされて、転んだけどあれは向うが悪いんだ！」などなど。また「“コロナ禍”の間も、コロナを理由にして山行を止めたことは無いよ」、兎に角三浦さんが元気に山行に出かけるということは、皆さんの憧れであり、希望の星なのだから。三ヶ原さんはこれまでに約3千ヶ所の温泉に出かけたとか。1日に13ヶ所の温泉に浸かったことも。「それでは脱いだり、着たりで大変ですね」、「温泉に行ったら着いた時、寝る前、朝の少なくとも3回は入らなくっちゃ」、「1回で十分！」などなど色々のご意見がありました。石井さんが自宅で収穫した“柚子”を、沢山持参されて皆さんに配った、冬至日に柚子風呂にしようかと思っていたら、三浦さん「ゆずってもらいます」と、又松山さん「秋刀魚を焼いて大根おろしで食べたい！」などなど。

15時にお開きにして真鶴駅に戻り、小田原から小田急線組と、東海道線横浜方面組に分かれて解散した。



「お林展望公園」にて



「三ツ石」